

自分の目を見た・感じたトランス

小林 蓮心（高校2年）

私が日本にいた時と、実際にトランスに行った時のアメリカに対してのイメージはガラリと変わった。まず、違いについては3つある。

1つ目は、清潔感だ。日本にいた時は、アメリカではそこら中にゴミが散らかっており、海も濁っている、さらには、落書きもやりたい放題、空気も日本より悪いと思っていた。だが、そんなことはなく実際にトランスに行ってみると、日本にある自動販売機の間隔でゴミ箱があり、ゴミ箱欲しいなと思っていたら、目の前にあるくらいで、みんなそこに捨てている。さらにはゴミ清掃車という、落ち葉やゴミなどを定期的に拾う、ほうき車のようなものも通っていたため、常に路面は綺麗だ。落書きも所々にあるが、芸術的落書きやビルの一面に大谷翔平の絵画のようなものを描く人がいて、悪ふざけというよりはさらに景観をよくするアートのように見えた。海岸もゴミが全く見当たらず、すごく綺麗だった。ここで思ったことは、日本よりも格段に清潔への意識があり、綺麗なことだ。日本にもいくつも取り入れたいことをトランスに行ってみて見つけることができたと思う。

2つ目は、犯罪だ。日本では、親に「アメリカの方が何十倍も犯罪件数多いし、常に誰かが自分を狙っていると思え」と言われて、少し緊張していた。しかし、実際に行ってみると、その犯罪というのはごく稀に起きるものであって、巻き込まれることも、見ることも、その時はなかった。だが、だからといって警戒を解いたわけではない。常に鋭い目で周りを見ていた。次の派遣生も十分に気をつけて欲しい。治安に関連して、少し怖い体験もした。柏生のみで2泊3日のサンディエゴの3日目にあった事だ。3人で行動していた時に、後ろから急に“Guys, are you travelers? If I give you guys 10 dollars, can you carry thing one block ahead?” と知らない人に声を掛けられ、私ともう1人は困惑してしまい、とっさに“Of course.”と言おうになった。冷静だったもう1人は全否定で無視するよう促し、その場は終わった。だが、それは自由時間開始の出来事で、集合時間になってもその声をかけた人はまだ広場で同じことをしていた。冷静だった柏生にあの時は助けられたと思っている。誘拐犯や怪しい人はたくさんいるだろうから、用心するに越したことはない。

3つ目はアメリカ人だ。彼らは気が強くて、怖くて、自己主張の強い個人主義の人が多いというイメージだったが、出会った人たちは怖くはなく、優しい人たちばかりで、安心して安全に生活できる環境だと思った。バスの運転手、カフェの店員までもが日常的に話しかけてくれて、私にとってはとても良い経験だった。自分の英語力の向上にも役に立った。

私は将来、アメリカで働き、住みたいという希望を持っている。これはずっと前から考えていたことだが、今回の派遣プロジェクトで、短期間の滞在ではあったけれど、アメリカでの生活の一端を知ることができて、その思いは一層強くなった。

以上、私が肌で感じたトランスは概ね肯定感に満ちている。ただし今回の貴重な体験には、短期間の親善活動において私たちの安全面を最優先に、「アメリカの良い面」に触れてもらおうとする TSCA の皆さんの配慮があったことを理解している。日本を含めて、どの国にも光と影の部分があると思う。今回のアメリカに対する肯定感を胸に、これから様々な体験を積むことによって、表面的な見方にとらわれることなく幅広い視野を身につけたいと強く思った。

最後に私たちの派遣に関わってくくださった全ての皆さんに深く感謝します。

